

福岡市美術館の事業について

○平成 26 年度の事業計画

(1) 展覧会の開催

ア. 特別企画展

(ア) 「法隆寺展－聖徳太子と平和への祈り－」

展覧会期：平成 26 年 4 月 19 日(土)～6 月 1 日(日)38 日間

出品点数：66 点

運営方法：実行委員会設立（福岡市美術館・法隆寺・読売新聞社）

仏法による平和を理念として、古代日本の政治や文化に輝かしい功績を残した聖徳太子は、没後約 1400 年もの時を経た今もなお、絶大な崇敬を集めている。この展覧会は、国宝「銅造観音菩薩立像（夢(ゆめ)違(ちが)い観(かん)音(のん)）」をはじめとする 7～8 世紀の仏像や、聖徳太子の姿とその生涯を表した鎌倉時代の彫刻・絵画など、国宝・重要文化財を含む法隆寺、聖徳太子ゆかりの宝物を一堂に展示する。

(イ) 「黒田家の美術」

展覧会期：平成 26 年 9 月 2 日(火)～9 月 28 日(日)24 日間

出品点数：約 120 点

運営方法：実行委員会設立（福岡市美術館，NHK福岡放送局，西日本新聞社）

NHK大河ドラマ「軍師官兵衛」放映を記念し、官兵衛が藩祖である筑前黒田家に伝来した重宝のうち、美術館所蔵の美術工芸品を紹介する。この特別展示は、福岡市博物館で開催の特別企画展である官兵衛展と連動するもので、同展では展示されない官兵衛以降の黒田資料を展示する。

(ウ) 「更紗の時代」

展覧会期：平成 26 年 10 月 11 日(土)～11 月 24 日(日)39 日間

出品点数：約 200 点

運営方法：実行委員会設立（福岡市美術館，未定）

16－17 世紀以降の交易でもたらされた舶載品のなかでも、インドで制作された更紗は日本の文化に広く受け入れられ、鎖国政策を敷いたのちにも大きな流行を見た。更紗が愛され続けた、江戸時代。その更紗の時代に、諸外国との交流によってもたらされたインド更紗は、どのように日本の文化に組み入れられ、どのような新しい美術工芸を生み出すに至ったのか。また、同時代のヨーロッパや東南アジアで、更紗はどのように受け入れられたのか。本展では、国内外のインド更紗を中心とする更紗の名品と、それらが影響を与えた染織、陶磁器、浮世絵などの工芸品を展示する。

(エ) 「成田亨 美術／特撮／怪獣」

展覧会期：平成 27 年 1 月 6 日(火)～2 月 11 日（水祝）32 日間

出品点数：約 300 点

運営方法：実行委員会設立（福岡市美術館，未定）

成田亨（とおる）（1929-2002）は、「ゴジラ」の撮影現場を手伝ったことをきっかけに特撮美術の世界に足を踏み入れ、初期のウルトラシリーズ（ウルトラ Q，ウルトラマン，ウルトラセブン）で超人，宇宙人，怪獣などのデザインを手がけた。特撮映画，番組の世界では欠かすことできない人物であるが本来は彫刻家である。本展では、

ウルトラシリーズ他のデザイン原画の他、未発表の画稿や、あまり知られていない絵画や彫刻も紹介し、成田亨の創作の全貌を紹介する。

イ. 常設企画展

(ア) 近現代美術常設企画展「鈴木貴博 生きろ美術館展」

展覧会期：平成26年8月6日（水）～10月26日（日）

鈴木貴博（1967年大阪生まれ）は、「生きろ」の文字を写経のように書き続けるパフォーマンスを国内外で行い、見る者に作者の「生のエネルギー」を直接的に伝えてきました。本展では、過去の記録写真や絵画作品展示の他、鈴木を当館に1ヶ月招聘し、「生きろ」のパフォーマンスと絵画制作を展示室内で開催。観覧者も参加できるワークショップも行い、作家の活動を直接的に伝えます。

ウ. 常設展

(ア) 近現代美術展示室

近現代美術室は半年ごとに展示替え、日本画工芸室・小作品室・企画展示室は1～2か月ごとに展示替えを予定。

- ・平成26年4月1日～6月1日 「うまい絵—おしながき—」
「告発する美術1 池田龍雄」
「桜井孝身／オチ・オサム／石橋泰幸—九州派黎明期を支えた3人の画家」
- ・平成26年6月10日～8月3日 「水上泰生展—花鳥のいろどり」
「新収蔵品展—福岡の美術（1970年以降）を中心に—」
- ・平成26年8月5日～10月26日 「トリックスターを捕まえろ！」
「告発する美術2 ジョージ・クロスとオットー・ディックス」
- ・平成26年10月28日～1月12日 「夢見る植物園」
「版画って何？」
「画／布」
- ・平成27年1月14日～3月29日 「1936年—博多築港大博覧会の頃—」
「OYAZI展」
「キロクとキオク」

(イ) 古美術展示室

松永記念館室と古美術企画展示室は、1～2か月ごとに展示替えを予定。

- ・平成26年4月1日～6月1日 「岩佐又兵衛 36×2 ふた組の「三十六歌仙絵」—挙公開」
「法隆寺と古刹の美術」
- ・平成26年6月10日～8月3日 「耳庵と茶道具展 戦前の収集品を探る」
- ・平成26年6月10日～10月5日 「新収蔵品展—ガンダーラ仏、インドス土器、仙厓など」
- ・平成26年6月10日～11月30日 「九州古陶の美・田中丸コレクション」
- ・平成26年8月5日～10月5日 「陶磁・工芸の名品」
- ・平成26年10月7日～11月30日 「館蔵 東南アジア美術展」
「雪月花の美」
- ・平成26年12月2日～2月1日 「福の神 大集合！」

- ・平成 27 年 2 月 3 日～3 月 29 日 「茶の湯交遊録 仰木魯堂・政斎と松永安左門」
「冬のおとなミュージアム 「LOVE/愛」いにしへの恋バナ」
「伝・源実朝筆日課観音図をめぐって」

(ウ) 東光院仏教美術室 (コーナー展示)

NHK大河ドラマ軍師官兵衛を記念して、官兵衛ゆかりの黒田資料を2か月ごとに展示替えする予定。

- ・平成 26 年 4 月 1 日～5 月 25 日 「お姫様の髪飾り」
- ・平成 26 年 5 月 27 日～7 月 13 日 「黒田家伝来の書跡」
- ・平成 26 年 7 月 15 日～8 月 31 日 「蒔絵と香道具」
- ・平成 26 年 9 月 2 日～11 月 3 日 「柔らかな狩野派」
- ・平成 26 年 11 月 5 日～12 月 27 日 「黒田家の文芸」

エ. 公募展

第49回福岡市美術展

展覧会期：平成 27 年 3 月 10 日 (火) ～3 月 22 日 (日)

(2) 教育普及事業

ア. 夏休みこども美術館 (7 月 23 日～8 月 31 日)

期間中子ども向けにコレクション作品を鑑賞する活動やバックヤードツアー、図書の特集を予定。

イ. つきなみ講座 (毎月 1 回)

月 1 回土曜日に美術館職員が一般向けに自身の研究・展示仕事内容等について話す。

ウ. ファミリーDAY (11 月 1 日～3 日)

親子を対象にふらりと立ち寄って参加できるワークショップを館内で同時多発的に実施予定。

エ. こどもアートアドベンチャー

年間を通じて希望する学校にスクールツアーなどのプログラムを実施。

オ. いきヨウヨウ講座 (3 月頃)

60 歳以上を対象としたワークショップ講座。

(3) 読書室

展覧会の開催に合わせて、関係ある図書を集めた特集コーナーを設置予定。

(4) 美術館開館記念事業

ファミリーDAY (11 月 1 日～3 日)

(5) 収蔵品の収集

美術品収集方針に基づき予算の枠内で収集予定。

(6) その他

ア 福岡ミュージアムウィーク

平成26年5月17日 (土) ～25日 (日) (9日間)

博物館・美術館の役割を広く多くの方々に知っていただくために制定された「国際博物館の日」(5月18日)を記念して、福岡市内の博物館や美術館など11施設が連携し、様々なイベントを通して「出会いの場」、「知識の場」、「発見の場」である博物館・美術館をアピールする。

① 共通事業

(ア) 期間中のコレクション展観覧料・入館料無料（一部割引）

(イ) スタンプラリー

② 福岡市美術館事業

(ア) 講演会「古美術v. s. 現代美術——日本美術を楽しむために」

日程：5月17日（土）14:00～15:30

講師：山下裕二（明治学院大学教授）

場所：講堂

内容：日本の古美術作品と近現代美術作品。福岡市美術館でもそうですが、それらが同じ空間に展示されたり、一緒に語られることはあまりありません。この講演会では、『日本美術応援団』などの著書のある山下裕二氏を招き、普段はちょっと距離のある「古美術」と「現代美術」を結びながら、目から鱗の「日本美術」の楽しみかたを語っていただきます。

定員：240名（事前申込み、抽選）

(イ) 法隆寺展記念講演会「聖徳太子絵伝と太子説話」

日程：5月18日（日）14:00～15:20

講師：菊竹淳一（九州大学名誉教授）

場所：講堂

内容：聖徳太子の伝説はどのように描かれ、信仰されたのか。聖徳太子絵伝研究の第一人者にお話しいただきます

定員：240名（先着順）

(ウ) ミニミニワークショップ

日程：5月20日（火）～23日（金）10:00～15:00

場所：キッズコーナー

内容：大きなタネ型の箱から3つの素材をひいて、その素材で「森のなかま」を作ります。キッズコーナーをデザインしたオーギカナエさんが期間中の1日やってきます。

対象：未就学児童

定員：常時10名程度（入れ替わり制）

(エ) アジア代表日本2014「染め」ワークショップ

主催：アジア代表日本2014実行委員会

日程：5月18日（日）10:00～15:00

場所：教養講座室

技術指導：福田隆雄（福田染物店）

内容：サッカーワールドカップブラジル大会に向けて、日比野克彦氏と一緒に日本代表を応援するマッチフラッグや手拭いなどを、「染め」で作ります。

定員：なし（当日随時受付）

(オ) つきなみ講座「所蔵品でたどる20世紀の美術」

日程：5月24日（土）14:00～15:30

講師：山口洋三（当館主任学芸主事）

場所：教養講座室

内容：福岡市美術館で最も大きなコレクション展示室「近現代美術室」。この展示室では、20世紀の美術史の大まかな流れに沿って作品が並んでいます。今回のつきなみ講座では、現在の展示の担当者が、展示内容をひもときながら、20世紀

美術の変遷について語ります。

定員：50名（先着順）

(カ) 建築ツアー

日程：5月24日（土）、25日（日）10:30～12:00

内容：1979年、前川國男によって設計され開館した福岡市美術館の建築を鑑賞します。

普段見ることができない裏側もご案内します。

定員：20名（先着順）

(キ) 福岡市美術館ハイライトツアー

日程：5月17日（土）～25日（日）①11:00～②14:00～ 各40分程度

内容：ボランティアと一緒に当館のコレクションを見る入門編ツアーです。

申込み：不要

(ク) けやき通り音楽祭2014チャリティーコンサート

主催：けやき通り音楽祭実行委員会

日程：5月24日（土）・25日（日）14:00～16:00

内容：「“展覧会の絵”の音楽界」テーマに、照明や映像などのステージ演出を盛り込んだミュージシャンによるコンサートを開催します。

場所：講堂

定員：240名（事前申込み）

【議題2】

福岡アジア美術館の事業について

1 平成26年度の事業計画

(1) 展覧会の開催

ア 特別企画展

(ア) 「NTT西日本スペシャル おいでよ！絵本ミュージアム2014」

展覧会期：平成26年7月25日（金）～8月17日（日）

運営方法：実行委員会設立（福岡アジア美術館、西日本新聞社、
NPO法人子ども文化コミュニティ）

福岡の夏の定番企画「おいでよ！絵本ミュージアム」シリーズの第8回目。

今回は、想像力をかきたてるファンタジー絵本や古今東西の民話や昔話を中心に「時空の旅」をテーマに開催予定です。

毎年異なる大胆なデザインの空間に並ぶ絵本1000冊と原画とともに、彫刻ラウンジやほかで展開するワークショップやイベントをお楽しみいただけます。

(イ) 「第5回福岡アジア美術トリエンナーレ2014」

展覧会期：平成26年9月6日（土）～11月30日（日）

運営方法：実行委員会設立（福岡アジア美術館ほか）

ダイナミックに変化するアジアの最新美術動向を紹介する国際美術展「福岡トリエンナーレ」の第5回目。開館15周年を記念する本展では、アジア21カ国・地域から約40人・組の美術作家を厳選して紹介します。会期中には、参加作家による多彩な交流プログラム（滞在制作、ワークショップ、トークなど）をおこなうほか、特別部門として「モンゴル画の新時代」を開催します。

イ 常設企画展

今年度は、福岡アジア美術トリエンナーレ内の特別部門「モンゴル画の新時代」として開催。

ウ コレクション展 ※FT5期間中は、コレクション展はなし。

(ア) カウントダウン、FT5！—福岡トリエンナーレってなに？（※FT1, 2は4/3-6/3、FT3, 4は6/5-8/19）

開催期間：平成26年 4月 3日（木）～ 8月 19日（火）

(イ) 金属ぞくぞく大集合！ 開催期間：平成26年 4月24日（木）～ 8月 19日（火）

(ウ) 声なきVoice 開催期間：平成26年12月13日（木）～ 平成27年3月24日（火）

(エ) 冬のおとなミュージアム「LOVE」— 女神のささやき

開催期間：平成26年12月13日（木）～ 平成27年2月24日（火）

(オ) わたしの村をめぐる物語 開催期間：平成27年 2月26日（木）～ 5月12日（水）

(2) 美術交流事業

ア 美術作家招聘事業

「第5回福岡アジア美術トリエンナーレ2014」の交流プログラムと連動して、同展の出

品作家の中から6名（10週間×1人、7週間×2人、5週間×3人）を招聘し、滞在制作やワークショップ等を行う。

イ 美術作家・研究者受入支援

助成等を受けて自費で福岡に滞在し、作品制作や調査研究を行うことを希望するアジアの美術作家やアジア美術の研究者に対して、制作・調査活動を支援する。

(3) 収蔵品の収集について

平成26年度購入予定

バン・ジョンア「不適應と消化不良」（絵画）、FT5出品作品など 30点

[参考]

平成25年度 購入 47点

寄贈 20点

(4) その他

ア 「とびだせ！アジア美術館」

心身の疾病や障がい、保護の必要性などの理由から、来館が困難な子どもたちが入院／入所する施設内に所蔵品等を展示するとともに、ワークショップを開催することで、アジアの美術・文化に触れる機会を提供する。

時期・会場未定

イ 福岡ミュージアムウィーク

平成26年5月17日（土）～25日（日）（9日間）

博物館・美術館の役割を広く多くの方々に知っていただくために制定された「国際博物館の日」（5月18日）を記念して、福岡市博物館・福岡市美術館・福岡アジア美術館・福岡市埋蔵文化センター・「博多町屋」ふるさと館・はかた伝統工芸館・王貞治ベースボールミュージアム・九州大学総合研究博物館・九州産業大学美術館・西南学院大学博物館・三菱地所アルティウムが連携し、様々なイベントを通じて「出会いの場」、「知識の場」、「発見の場」である博物館・美術館をアピールする。

① 共通事業

(ア) 期間中の常設展観覧料・入館料無料（一部割引）

(イ) スタンプラリー

② 福岡アジア美術館事業

(ア) トークショー

日程：5月25日（日）14:00～16:00

講師：森村 泰昌

場所：彫刻ラウンジ（7F）（または、あじびホール）

定員：120名（事前申込み、先着順）

(イ) ギャラリーツアー

日程：5月19日（月）、20日（火）、22日（木）、23日（金）14:00～14:40

内容：ボランティアによるアジアギャラリーの解説・案内

定員：毎回20名（当日先着順）

(ウ) バックヤードツアー

日程：5月18日（日）、24日（土）14:00～15:00

内容：普段は見るできない福岡アジア美術館の裏側を学芸員が案内する。

定員：毎回20名（当日先着順）

(エ) アジアの絵本と紙芝居の読み聞かせ

日程：5月17（土）、18日（日）、24日（土）、25日（日）

①11:30～12:00 ②13:30～14:00

内容：3～7歳程度の子どもを対象にした、ボランティアによるアジアの絵本と紙芝居の読み聞かせ。

場所：キッズコーナー（7F）

定員：子どもと保護者 毎回10組（当日先着順）

*（ア）の日時によって（イ）～（エ）の日程が変更になる可能性あり。